

# 天然銘木 DX・かがやき 施工上のご注意とお願い

## ■ 下地施工

1. 大引きはよく乾燥した角材（90mm角以上）を909mm間隔に配置します。
2. 根太は45mm角以上で両面プレーナーで厚みを揃えたものを303mm間隔に配置します。

### ご 注 意

- 下地が十分な強度に仕上がっていることを確認して下さい。（人が乗ってもたわまないこと）
- 大引きと根太にボンドを塗付すると床鳴り防止に効果的です。
- 12mm厚以上の合板を捨て貼りすると床全体の強度が高くなり床鳴りを防止します。
- 床下の湿気による突き上げと腐れ防止のため、床下には必ず建築基準法に基づく通風口（5m以内に300cm<sup>2</sup>以上の通風口）を設けて、風通しをよくして下さい。
- ピアノなど重量物を置く場所、ひんぱんに出入りする箇所などは根太間隔を150mm～200mm位に狭めるなど下地補強をして下さい。
- 根太に段差があったり下地の強度が不足すると床鳴りの原因となったり、正しく実がかみ合わず段差を生じますので充分確認して下さい。
- 雨ぬれなど湿った状態の下地には施工しないで下さい。接着不良による床鳴りや湿気によるシミ、突き上げの原因となります。

## ■ 仮 並 べ

1. 本製品は天然木を使用しておりますので色と柄に多少の違いがあります。必ず仮並べし全体としてのバランスを確認して下さい。
2. 本製品は14%以下の安定した含水率で製造されておりますが、施工現場の環境条件によって寸法の安定性は異なります。

開梱後、濡れていない水平面で2～3日養生しますと平衡含水になり下地となじみやすくなります。

### ご 注 意

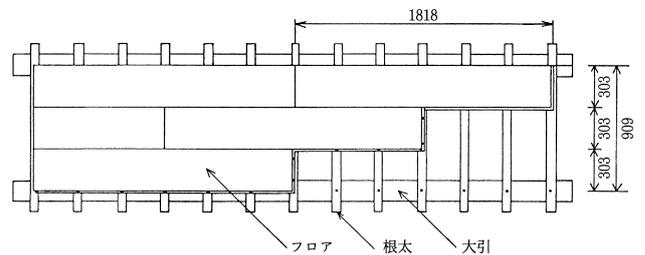
- 仮並べして色と柄に不調和がないことをご確認下さい。施工後の色と柄の苦情、お取り替えには応じられませんので、予めご了承下さい。
- 木材ですので湿度によって多少の伸び縮みがあり

ます。（合板の含水率1%当たりの寸法変化率は0.02%程度です。）

- 床下湿気によるフロアの伸びを考慮し、壁際部に隙間をとって下さい。特に広い部屋や長い廊下などに施工される場合は、突き上げことがあります。

## ■ フロアの配列

1. フロアは1枚おきにずらして尺側継ぎ目が一続きにならないようにします。



2. 縦継ぎは必ず根太の上となるように割付けして下さい。
3. 合板捨て貼り下地の場合は合板継目とフロアのジョイント部が重ならないようにして下さい。（縦方向、横方向とも100mm以上ずらします。）
4. 段差、施工後の隙間防止のため捨て貼りに使用する合板、パーティクルボードは、継ぎ目を突きつけず3～5mmの隙間を取って下さい。

## ■ 接着剤と塗り方

1. 接着剤は以下のタイプをご使用ください。  
木質床材・根太接着用
  - アクリル樹脂系エマルジョン形接着剤
  - 変成シリコーン樹脂系接着剤
  - ウレタン樹脂系接着剤
2. 接着剤を塗る箇所のゴミや木屑を取り除いて下さい。
3. 接着剤が乾かないうちに貼って下さい。

### ご 注 意

- ブラシや板切れで平らに伸ばすと馴染みが悪くなり接着しないことがあります。
- フロアの表面に接着剤が付着した場合は速やかに拭き取って下さい。
- 実加工部分にも塗布しますと床鳴り防止に効果がありますが、表面へのはみ出しにはご注意ください。

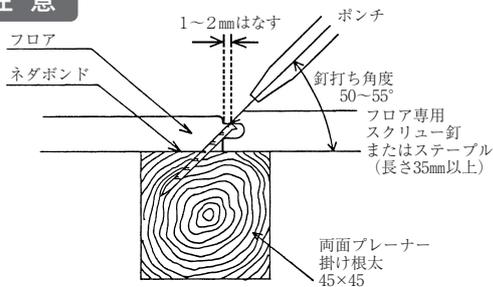
## ■釘の打ち方

1. フロア専用スクリー釘またはステープル（長さ35mm以上）をお使い下さい。
2. 2列目以降は雄実と雌実を確実に合せながら貼りつけます。
3. はめ込みには当木を当てて下さい。雄実を直接叩きますと損傷したり、次にくるフロアがはめ込みにくくなります。
4. 釘打ちは根太位置を狙って打って下さい。
5. 釘打ちの角度は50～55°の角度で打ち込んで下さい。

尺側盛り上がり防止のため短辺方向も2本釘打ちして下さい。6尺辺は根太間隔303mm毎に釘打ちして下さい。

6. 釘頭はポンチで打ち沈めて下さい。

### ご注意



- 釘頭が残っていると次にくる雌実が入りにくくなります。またフロア表面の盛り上がりの原因となります。
- 縦継ぎは根太の上になるようにして下さい。

## ■釘のふくれ防止

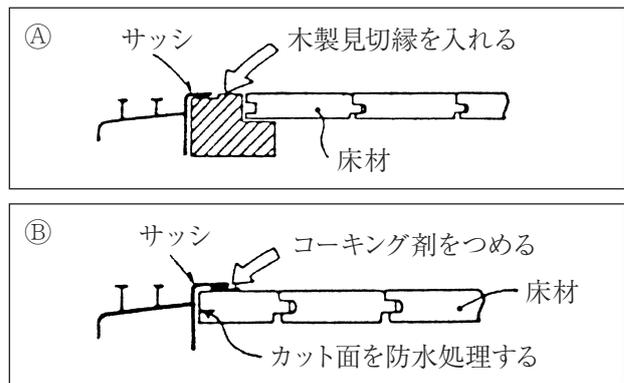
1. 釘の位置を雄実の根元より1～2mm離して打ち込んで下さい。
2. 釘の角度は50～55°を目安にして下さい。

### ご注意

- 結露水、湿気について  
基本的にトイレ、洗面所、流し台の排水開口部等の水廻りへのご使用には適しません。また、サッシ際などは結露水や湿気でフロアが腐朽、シミとなることがありますのでご配慮下さい。

## ■はき出し窓のおさまり

はき出し窓の部分は、①または②の方法でおさめて下さい。床材がサッシに直接ふれていると、結露水が浸みこんで、シミになることがあります。



## ■養生

1. 施工後は清掃してから養生シートを敷きます。
2. フロア用養生テープのフロアに接着する幅は10mm以下にして下さい。

### ご注意

- 養生シートの留めはフロア用養生テープを使用して下さい。
- 接着力の強いテープを使用したり勢いよく剥がすとフロアの表面が損傷する場合があります。
- 脚立を使う場合は合板やボードを敷いて床面を保護して下さい。
- 作業完了後窓の閉め忘れなど水濡れに注意して下さい。  
水濡れのまま放置しますとシミ、割れ、ふくれなどの原因となります。
- 美装の際、洗浄液をフロア表面に多量にまきこぼすと、製品の美観及び品質をそこなうことがありますので絶対にしないで下さい。

## ■お手入れ

1. ワックスをかける場合は、ワックス製品の取扱説明や使用マニュアルを遵守して下さい。
2. ワックスは、(株)リンレイ「ハイテクフローリングコート」または「オール」をご使用下さい。
3. 雑巾がけされる場合は固く絞って水気を除いて下さい。
4. クレヨン、マジックなどの汚れで、乾拭きしてもとれない場合、シンナー、ベンジン等の溶剤でかるく拭きとり、後はワックスをかけて下さい。
5. キッチン等の床に、布製マットを使用する場合必ず乾いたものを使用して下さい。布製マットを濡れたままで使用しますと、シミ、ひび割れの発生原因となります。